

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第35週	第34週	第35週		第34週		第35週		第34週		第35週		第34週		第35週		第34週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	12	11	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	55	6	0	3	0	2	0	2	0	0	0	0	4	0	1	0	
感染性胃腸炎	128	63	51	11	18	1	49	4	15	0	0	3	0	2	4	3	1	
水痘	9	10	0	4	2	3	0	2	1	3	0	1	0	0	1	1	0	
手足口病	38	24	7	1	6	0	5	1	6	0	0	0	0	2	0	0	0	
伝染性紅斑	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
突発性発疹	30	35	7	1	8	0	6	0	6	0	0	1	0	1	0	2	0	
ヘルパンギーナ	197	142	9	2	9	2	6	0	6	0	0	2	0	3	0	3	0	
流行性耳下腺炎	7	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
RSウイルス感染症	107	68	4	0	5	1	4	0	5	0	0	0	0	1	0	0	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0		0	
流行性角結膜炎	25	21	1	0	0	0	1	0	0	0		0			0		0	

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況	
<p>流行中</p> <p>現在、流行中の感染症はありません</p>	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻りに人が触れ場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p> <p>※糞口感染 接触感染の一種。便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染します。排泄後の手洗い、オムツの適切な処理が必要です。</p>
<p>小流行中</p> <p>〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎〉 A群レンサ球菌による上気道の感染症です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p> <p>〈手足口病〉 頬の内側や舌、手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、乳幼児を中心に夏季に流行します。感染経路は飛沫感染、接触感染です。症状が消失した後も、2~4週間にわたり、便などからウイルスが排泄されるため、注意して下さい。</p> <p>〈ヘルパンギーナ〉 発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎であり、乳幼児を中心に流行します。感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。</p> <p>〈RSウイルス感染症〉 RSウイルスの感染による呼吸器感染症です。症状は軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>	

麻疹発生

○三重県で麻疹の発生報告がありました

- 平成30年8月31日に三重県内の医療機関から麻疹の発生届の提出がありました。
- 初発患者は20歳代外国籍の女性です。
- 8月23日に中部国際空港・鉄道・タクシーを利用して三重県内の自宅へ帰宅しています。その後、3つの医療機関を受診し麻疹と診断されました。
- 麻疹は感染力が強く、空気感染するため、手洗い・マスクのみでは予防することができません。
- 近畿方面に旅行等で訪れた方で、初発患者と同時間帯に空港・公共交通機関を利用した恐れがあり、麻疹を疑うような症状(高熱・咳・鼻水・目の充血等)が現れた場合は、必ず事前に医療機関へ連絡し、麻疹の疑いがある事を伝えてから受診してください。



風しん発生増加中



○関東地方で風しんの届出数が増えています

- 現在、関東地方で風しんの届出数が大幅に増加しています。
- 平成30年は8月19日までに184例の届出があり、そのうち124例は7月23日以降の報告です。
- 平成29年は1年間の届出数が93例であり、現時点で上回っています。

予防接種を受けましょう

○麻疹・風しんに感染しないためには予防接種が有効です

- 麻疹・風しんの治療には特効薬がないため、感染しないようにすることが重要です。
- 現在、麻疹・風しんは定期的予防接種となっています。
- 第1期：1歳以上2歳未満
- 第2期：5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間
- 定期予防接種以外にも自己負担で予防接種をうけることは可能です。希望される場合は主治医に相談しましょう。

この情報に関するお問い合わせ先：県中保健福祉事務所 医療薬事課 感染症予防チーム

TEL:0248-75-7818 E-mail:kenchu_kansensyoyobou@pref.fukushima.lg.jp